

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

ハスモンヨトウ及びオオタバコガの発生状況と防除対策（技術情報9号）
について（送付）

ハスモンヨトウの現在の発生状況は平年並ですが、今後の平均気温は平年より高い予想であるため、発生時期が平年より早まる可能性が高くなっています。また、ダイズにおいてオオタバコガの発生が認められており、今後の発生状況に注意する必要があります。

現在の発生状況とダイズ及び野菜・花きにおける注意事項を下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考資料として御活用ください。

記

1 ハスモンヨトウの発生状況（表1、2）

（1）サトイモにおける虫数調査

8月3日及び4日に、発生の指標作物としてダイズほ場近辺のサトイモでの発生状況調査を行った結果、50株当たりの寄生株率は25.1%で、過去7年（平成15年度を除く平成11～18年度の平均：26.4%）並であった。50株当たり卵塊数は3.8（同平均：0.9）と過去7年の平均よりやや多い発生であったが、幼虫数（若齢～老齢までの合計）は240.1頭（同平均：333.4頭）と寄生頭数は過去7年の平均並であった。

（2）ダイズにおける虫数調査（表3）

8月8日及び9日にダイズ20ほ場における発生状況調査を行った結果、25株当たりのハスモンヨトウの寄生株率は4.8%（平年値なし）で、白変葉は認められなかった。

（3）フェロモントラップ誘殺数（図1、2、3）

生産環境研究所（合志市）のフェロモントラップでは、7月1半旬に平年より高いピークが認められた。高原農業研究所（阿蘇市）では、7月1半旬と7月6半旬にピークが認められた。い業研究所（八代市）では、4月1半旬～8月2半旬までほとんど誘殺されていない。

2 オオタバコガの発生状況

（1）ダイズにおける虫数調査（表3）

8月8日及び9日にダイズ20ほ場における発生状況調査を行った結果、25株当たりのオオタバコガの寄生株率は21.8%（平年値なし）で、新芽の加害が認められた。

（2）フェロモントラップ誘殺数（図4、5、6）

生産環境研究所（合志市）のフェロモントラップでは、7月1～2半旬と8月2半旬に平年上回る発生が認められた。高原農業研究所（阿蘇市）では、前年に発生は見られなかったが7月3半旬から発生が認められた。い業研究所（八代市）では、4月1半旬～7月6半旬までほとんど誘殺されていない。

3 防除上の注意事項

（1）ダイズ

ア ハスモンヨトウ

（ア）生産環境研究所（合志市）のフェロモントラップから、7月1半旬をピークとした場合、積算気温による次世代発生は8月1～2半旬、さらに次世代は9月1～2半旬になると予想される。ただし、気象予報（8月10日福岡管区気象台発表）によると向こう1ヶ月の気温は平年より高く、発生が早まる可能性が高いため、ほ場での発生状況に十分注意する。なお、サトイモにおける虫数調査では寄生頭数は平年並であるが、今後、高温、乾燥条件で推移すると多発す

ることも予想されるので、早期発見に努め、適切に防除を行う。

(イ) 若齢幼虫は集団となって食害し、その後周囲に分散するので、初期の食害発生に注意し、白変葉(若齢幼虫による被害葉)が認められたら防除を行う。なお、老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するため、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除する。

(2) 野菜(施設・露地)・花き

ア ハスモンヨトウ

(ア) 発生活長及び防除適期はダイズに準じる。

(イ) 施設栽培では施設開口部を防虫ネット(4mm 目以下)で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。なお、ネット上などにも産卵し、ふ化幼虫がネットの編み目をくぐり施設内に侵入するので、卵塊を見つけたら取り除く。

イ オオタバコガ

(ア) 生産環境研究所(合志市)のフェロモントラップから、7月1半旬をピークとした場合、積算気温による次世代発生は7月6半旬~8月1半旬、さらに次世代は8月6半旬になると予想される。ただし、気象予報(8月10日福岡管区気象台発表)によると向こう1ヶ月の気温は平年より高く、発生が早まる可能性が高いため、ほ場での発生状況に十分注意する。

(イ) 果実や茎、蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫には薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫を対象に防除を行う。なお、防除は発育日数(25 で卵期間3日、幼虫13.2日、蛹15.3日)を目安に行う。

(ウ) 果実に食入した幼虫に対する農薬の効果は低い。被害果を残すとハウス内で次世代の発生源となるので、ほ場外に持ち出し処分する。また、施設開口部を防虫ネット(4mm 目以下)で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

(3) 抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避ける。

(4) 農薬の使用にあたっては、必ず農薬ごとに定められた使用基準を遵守する。

問い合わせ先

熊本県農業研究センター生産環境研究所
病害虫研究室予察指導係(病害虫防除所)

担当: 作本、福永

TEL 096-248-6490(内線460)

FAX 096-248-6493

表1 平成19年度サトイモ50株でのハスモンヨトウ発生状況調査

調査日	調査場所	寄生株数	寄生株率	50株当り卵塊・幼虫数			
				卵塊	若齢	中齢	老齢
8/3	熊本市秋津1	5	10.0	5	0	1	0
8/3	熊本市秋津2	7	14.0	5	16	0	0
8/3	熊本市供合	18	36.0	2	150	10	30
8/4	城南町碓	9	18.0	0	290	421	0
8/3	玉名市北牟田	39	78.0	2	30	44	112
8/3	山鹿市梶屋	11	22.0	2	200	50	0
8/3	菊池市赤星	26	52.0	3	935	271	41
8/3	大津町陣内1	12	24.0	17	275	12	0
8/3	大津町陣内2	17	34.0	10	154	14	0
8/3	合志市上庄	4	8.0	0	78	2	1
8/3	阿蘇市小野田1	9	18.0	7	73	0	0
8/3	阿蘇市小野田2	1	2.0	0	0	1	0
8/4	嘉島町六嘉1	17	34.0	0	121	30	0
8/4	嘉島町六嘉2	1	2.0	0	0	0	0
平均値		12.6	25.1	3.8	165.9	61.1	13.1

発生ほ場率は100%

表2 平成11～18年度(平成15年度除く)の平均値(サトイモ50株8月調査)

調査年	調査地点数	寄生株数	寄生株率	50株当り卵塊・幼虫数			
				卵塊	若齢	中齢	老齢
H18	13	20.8	41.5	2.1	417.8	240.5	15.1
H17	13	15.1	30.3	0.9	145.6	80.1	11.7
H16	16	17.4	34.9	2.2	107.6	211.5	46.1
H14	15	14.9	29.7	0.6	205.5	143.0	21.4
H13	17	7.6	15.3	0.4	134.5	64.9	1.4
H12	9	11.7	23.3	0.4	249.2	64.0	1.2
H11	9	4.9	9.8	0.0	80.1	92.0	0.3
平均値		13.2	26.4	0.9	191.5	128.0	13.9

表3 ダイズ25株でのハスモンヨトウ及びオオタバコガの発生状況調査

	調査日	調査場所	ハスモンヨトウ			オオタバコガ		
			幼虫数	寄生株数	寄生株率	幼虫数	寄生株数	寄生株率
1	8/8	熊本市秋津1	3	3	12.0	10	10	40.0
2	8/8	熊本市秋津2	1	1	4.0	3	3	12.0
3	8/9	熊本市供合1	0	0	0.0	6	6	24.0
4	8/9	熊本市供合2	1	1	4.0	6	5	20.0
5	8/8	城南町碓1	3	3	12.0	3	3	12.0
6	8/8	城南町碓2	6	4	16.0	2	2	8.0
7	8/9	玉名市北牟田1	0	0	0.0	10	9	36.0
8	8/9	玉名市北牟田2	0	0	0.0	10	10	40.0
9	8/9	山鹿市中富1	4	4	16.0	5	5	20.0
10	8/9	山鹿市中富2	0	0	0.0	7	7	28.0
11	8/9	菊池市甲森1	1	1	4.0	3	3	12.0
12	8/9	菊池市甲森2	0	0	0.0	10	9	36.0
13	8/8	大津町陣内1	0	0	0.0	11	10	40.0
14	8/8	大津町陣内2	3	3	12.0	2	2	8.0
15	8/9	合志市上庄1	0	0	0.0	5	5	20.0
16	8/9	合志市上庄2	0	0	0.0	3	3	12.0
17	8/8	阿蘇市小野田1	0	0	0.0	4	4	16.0
18	8/8	阿蘇市小野田2	1	1	4.0	4	4	16.0
19	8/8	嘉島町六嘉1	1	1	4.0	6	6	24.0
20	8/8	嘉島町六嘉2	2	2	8.0	3	3	12.0
平均値			1.3	1.2	4.8	5.7	5.5	21.8

フェロモントラップにおける誘殺数

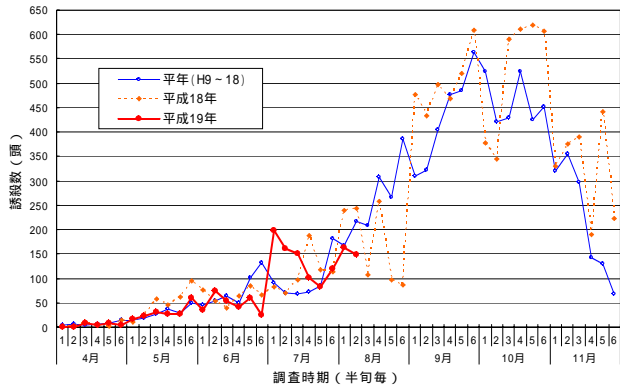


図1 ハスモンヨトウ(合志市)

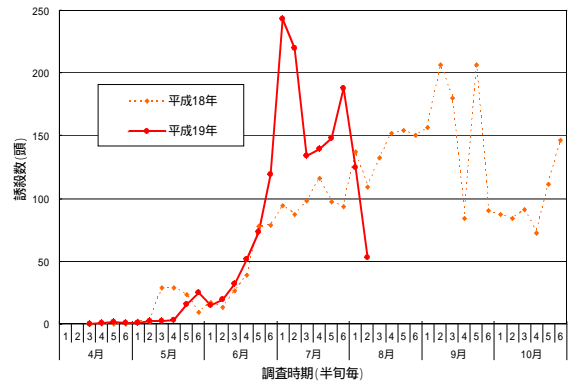


図2 ハスモンヨトウ(阿蘇市)

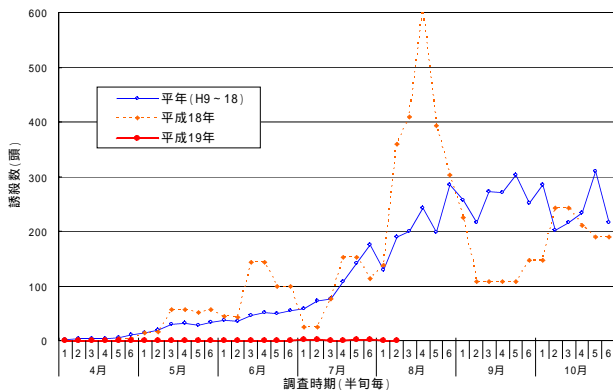


図3 ハスモンヨトウ(八代市)

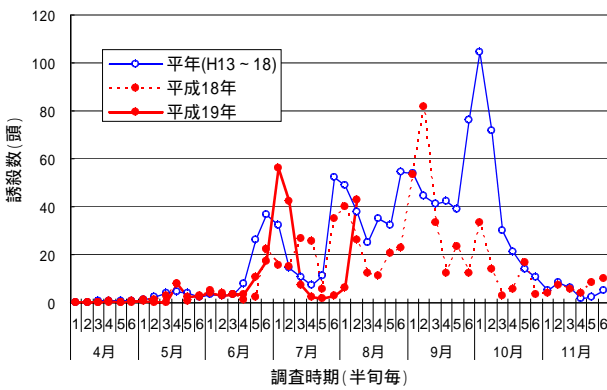


図4 オオタバコガ(合志市)

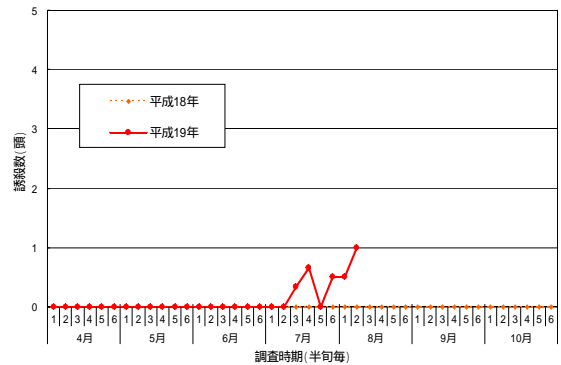


図5 オオタバコガ(阿蘇市)

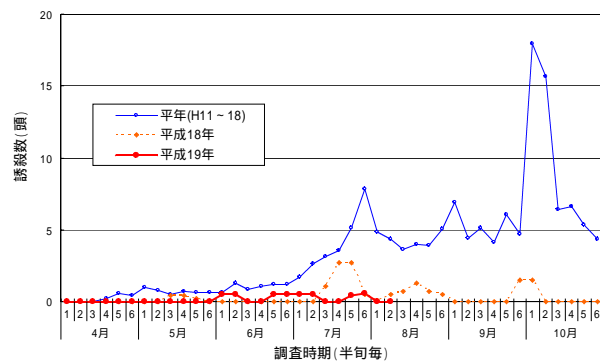


図6 オオタバコガ(八代市)